

「ユアーズ」菅田将暉- ドラマ『最高の教師 1年後、私は生徒に■された』
～私は二周目を生きている～

青森市子どもの権利擁護委員 関谷 道夫



直球勝負で三振を取ろうとしているドラマです。

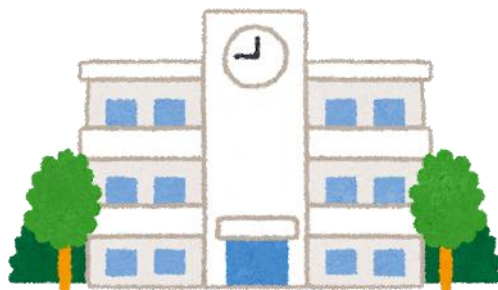
でも、重いドラマでした。妻は「暗い」という一言で、早々にリタイヤしました。

いじめや排斥、暴力、スクールカースト、多様性、LGBT、家族の亀裂など今日的な社会問題を取り込んでいる一方で、人間の内部に潜んでいる「脆さ」「危うさ」「狡さ」、一人ひとりの生き方までも、鋭く掘り起こしていきます。高いメッセージ性が鼻に付く人も、自分たちの中に潜む“悪”あるいは“弱さ”に迫ることで嫌悪感を抱く人もいるでしょう。

真正面から愚直に立ち向かっていく姿勢は嫌いではありません。最近の学園ドラマとしては、役者も脚本も、超一級と感じました。一つひとつの台詞に重みがありました。今までの継続ではない何かを伝えようとする意思を感じました。

ドラマの主人公は松岡茉優が演じる高校教師の九条里奈。事なかれ主義だった彼女は卒業式の当日、担任クラスの生徒に突き落とされ、命を奪われました。しかし、なぜか1年前にタイムスリップ。「2周目の教師生活」では、“覚悟”を決め、真剣に生徒たちと向き合い、自身の死の真相を探っていきます。

松岡茉優の“緊張感”のある演技が光っていました。まさに「屈折した影」のある女優、「折り重なった匂い」のする女優です。つぶらな瞳に眼力を感じます。『強い感情もなく、その場の空気であったり、誰かがやってるからという同調的感覚や自分に矛先が向かないためだけという逃避的思考で、こんなにも彼女の心を砕き踏みにじり蔑むような出来事に参加できるのだとしたら人間ではないと思います』と言い放って、容疑者の生徒達に真正面からぶつかっていきます。「変わる」「変える」がキーワードになっています。



1周目で自殺した女生徒鶴久森を演じる芦田愛菜は、2周目で死ぬ前に九条に独白（※1）の長台詞の動画を残しました。

「私達は必死に未来を変えるために、今を生きている」「先生、あの日教室で先生が一人でないとやってくれた時、なんでか分からないけれど、すごい力が湧いたんです。」「私は最後の最後までな

りたい自分になるために生きる。」この一人だけの長回しの映像シーンに、CMの笑顔では分からない芦田愛菜の高い演技力を感じました。

菅田将暉「ユアーズ」が大事な場面で流れてきますが、挑発的なエッジの効いた映像の迫力に押されて、音が聞こえてきませんでした。「しまったままの心に…」の出だしだけが耳に残っています。

もし、私達にも2周目の人生があるとしたら、あなたならどんな人生を送るでしょうか？なにが変わらずに、なにが変わっているのでしょうか？2周目の人生はないとしても、これからの残された人生の何を換え、何を続けるのでしょうか？

しまったままの心に わたしのふりした誰かがいる
しまったままの心に わたしのふりしたわたしがいる

さて、「私の中に違う誰かがいる」「もう一人の自分がある」という感覚は怖い話です。心でも身体でも、自分で自分をコントロールできないと感じた時はゾーとするような恐怖心を抱きます。日常生活でも往々にして起こります。

精神医学や心理学的にいえば「解離」という現象かもしれません。過度で深刻なストレス状況にさらされた時などに、意識の領域の内から自分自身の人格を形成している記憶や感情の一部を分離させて、自分の人格が存在する領域とは別の領域の内へと隔離して、自らの心を守ろうとする無意識的な防衛機制と言われています。軽いことでは記憶喪失や健忘、重くなると離人症や多重人格となります。

もう一つの捉え方として、**人格** (personality) から考えてみることもできます。Personalityの語源は、ラテン語の無言劇の**仮面ペルソナ** (persona) です。劇中の役柄を表すもので、着脱自由というニュアンスをもつことも語源に由来します。考えてみれば、私達は、いくつもの「仮面」を持って生活しています。慈愛の仮面、普通の仮面、悪魔の仮面...も持っています。時と場合によって、それを有効に活用しながら生きています。でも、かりそめの仮面だと思っていても、その仮面を外したら、その下も同じ顔だったという怖い話もあります。

「この世に生きている人間は全員、無自覚なナイフで人を刺したことがある…」というコメントがありました。みんな必死に生きていますが、他者からみたら、とんでもないことをやっているのかもしれませんが。生き延びるための戦い、自分のポジションを確保するための戦い、自分を守るための戦い…**子どもなりのサバイバル戦**を生きています。大人は、声にならない「援助希求のサイン」を聴き分けて、覚悟をもって対処する必要があります。

最終回の台詞に、「私にとって『最高の教師』は生徒の方だった…」という種明かしがありました。

「生徒に■された」の■には、なんの文字が入るのでしょうか？

病院で横たわる担任九条が生徒たちに最後に発した言葉は「**卒業おめでとう**」でした。

(次回は、「17」詩羽です。)

※1 独白…モノローグともいう。人物が特定の相手に聞かせることを目的とせずに語るせりふ。